

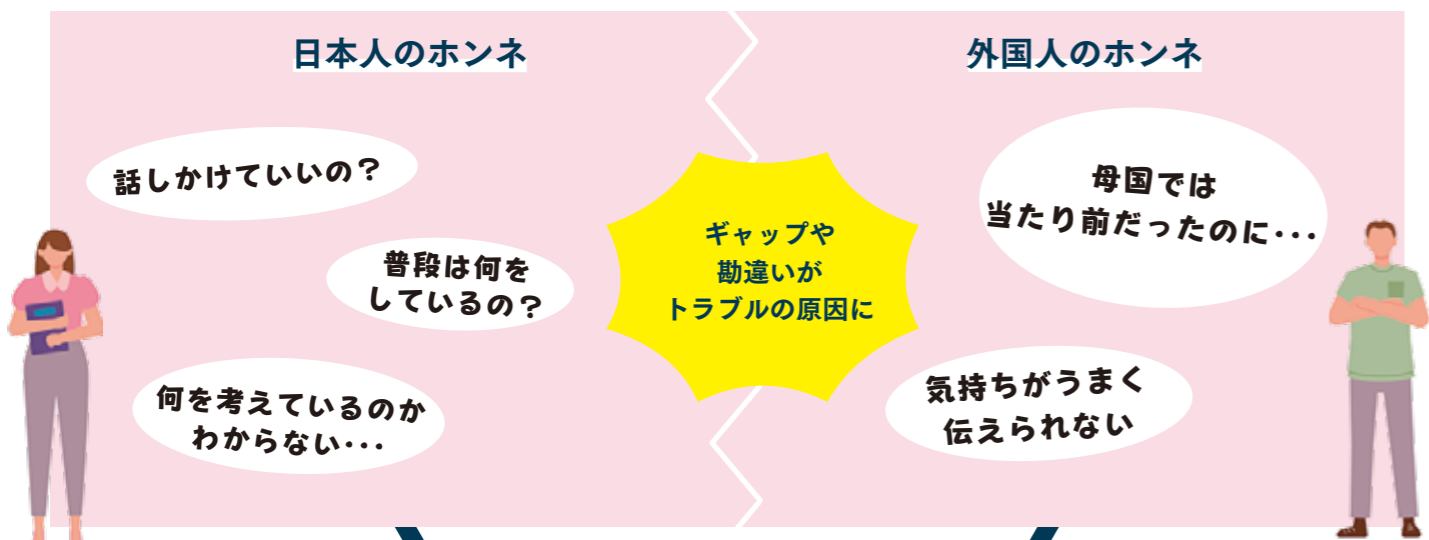


市内にある外国人共同宿舎「かがやき」で生活するベトナム・ネパール出身の皆さん。故郷の料理を食べている夕食の時間に伺いました。

みんな同じ Tsubame 市民として 共に暮らすために 多文化共生 を考える

燕市で生活を送る外国人の数は、年々増加しています。外国人の皆さんは一体どのような経緯で日本にやってきて、どのような生活をしているのでしょうか。今後、より身近になる「多文化共生」について、まずは燕市に暮らす外国人の皆さんについて知るところからはじめてみませんか。

問合せ 地域振興課 協働推進係 ☎ 0256・77・8361



そもそも「多文化共生」って？

多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いに文化や習慣の違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと」と言われています。文化や習慣の異なる人が同じ地域で暮らしていると、さまざまな悩みやギャップが生まれます。その解消のためにも、実際に「外国出身者の声」「外国人を知る人の声」を聞いてみましょう。まずは「知る」ことから「多文化共生」について考えてみませんか。

外国人の増加、多様化する燕

現在、燕市には656人の外国人が暮らしています(4月末時点)。また、その数は年々増加しています。国籍別で見ると、ベトナム・中国・フィリピンなどのアジアの国々を中心に、世界27の国・地域と国籍も多様化しています。

外国人の増加は、日本で深刻化している人口減少、それに伴う人手不足解消や専門的人材の確保につながる反面、地域住民と外国人との接点が増えることによるトラブル発生の原因にもなっています。互いの文化や習慣を理解し合い、共に燕市で気持ちよく生活をしていくうえで、今後はますます「多文化共生」を考えることが重要となってきます。

そのギャップを埋める考え方が「多文化共生」

p4~7でインタビューを紹介

- そのために、
- ①外国出身者の声
 - ②外国人を知る人の声
- を聞いてみましょう

